



※代表質問の内容は議員自身が2月定例会議事録に基づき記述しています。

QRコードを読み取り、令和3年2月定例会を選択すると視聴できます。

蒼天 (そうてん)

えんどう ひであき
(遠藤 英明 議員)

施政方針、市政運営の基本的姿勢

問 コロナ禍前にも「そこ流」に流れていた動きが加速して顕在化する、すなわち働き方やデジタル化が一気に進み日本を活性化させる。働き方改革や、デジタル化をどのように進めるか。

部長 国の方針に沿って長時間労働の是正、非正規労働者の処遇改善等、働き方改革について市内企業へ周知を行う。また、令和3年度に第6次情報化計画でデジタル化の方向性を示す。

問 将来人口減少が危惧される富士宮市にとって企業誘致は最優先課題の一つと思われるがどのように考えるか。

部長 市街化区域内の工業用地土地利用状況や進出企業の動向を確認し、令和3年度に策定される地区計画適用の基本方針に基づき、地域の新たな産業基盤構築と企業誘致を推進する。

令和3年度重点施策

問 フードバレー構想の食によるまちづくりで富士宮市はそれなりに知名度を上げてきた。「第1回フードバレーサミット」の概要を伺う。

部長 サミットでは交流している自治体の市長等に参加していただき、関係自治体等と食のネットワーク化を強化する取組や相互の産業復興に結びつく取組について、パネルディスカッションと基調講演を実施する予定。

問 教育分野ICT利活用推進についてGIGAスクール構想による授業が始まるが、どのような変化があるか。また、成果に何を求めるか。

教育長 一人一台のパソコンの活用により、個別最適な学びと協働的な学びの実現を通して、主体的・対話的で深い学びの充実と児童生徒の力を最大限に引き出すことを目指していく。

問 ゼロカーボンシティの表明をしたが、将来のカーボン・プライシング（排出量取引等、炭素に価格をつけること）の導入は考えているか。

部長 国の動向を注視し、情報収集に努める。

にほんきょうさんとうぎいんだん 日本共産党議員団

わたなべ よしまさ
(渡辺 佳正 議員)

問 コロナ禍で多くの市民が利用している生活福祉資金の返済はどうなるのか。

部長 生活福祉資金の貸付け主体は静岡県社会福祉協議会である。返済据置期間は令和4年3月まで延長され、返済免除についても的確に運用されるものと考えている。

問 新型コロナウイルスの簡易検査キットの導入は考えているのか。

部長 通常のPCR検査に比べ精度が低く、擬陽性による混乱が懸念されるので、現行のPCR検査を継続活用する。

問 コロナ後の社会を見据えて、どのような事業が当市で求められると考えているか。

部長 医療・保健・福祉体制の見直し強化、新たな産業・雇用政策・生活様式への対応、ゆとりある居住空間ニーズへの対応、デジタル化推進などを考えている。

問 中小企業実態調査の対象事業所と調査結果の活用について、どう考えているか。

部長 商工会議所や商工会の会員を中心に、約2千社を対象にアンケート調査。うち、約100社に実地調査を行う。中小企業振興基本条例の理念に沿い効果的な経済政策の策定に活用する。

問 音止の滝の芝川対岸の森林整備をどう進めるのか。

部長 滝と富士山を同時に見ることができるといえる景観を取り戻すため、眺望の支障となる樹木を特定し、森林土地所有者と協議を進めていく。

問 新たな水源確保の必要性和新水源の場所はどこか。

部長 北山上水道系の供給量が上限に達していること、北山浄水場の耐震化整備の際の浄水量減少への対応、災害時のバックアップ水源の確保、の3点により新たな水源が必要。北山工業団地北側、堀の内配水池西側付近で、井戸削井を実施している。